

道央廃棄物処理組合焼却施設管理運営事業

審査講評

令和5年7月

公募型プロポーザル選定委員会

第1 事業の概要

1. 事業名称

道央廃棄物処理組合焼却施設管理運営事業

2. 本事業の対象となる公共施設等の概要

焼却施設

施設稼働予定日	令和6年4月1日	
事業実施場所	千歳市根志越2533-1、2534-1、2532-11	
敷地面積	約4.3ha	
建築面積	4,970.71m ²	
延床面積	8,381.08m ²	
建築仕様	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造及び鉄骨造	
炉形式	ストーカ方式	
施設規模	158t/日 (79t/日×2炉 1日当たり24時間)	
処理対象物	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみ (家庭系一般廃棄物、事業系一般廃棄物、産業廃棄物) ・破碎選別処理後の可燃物 ・資源化処理残渣 ・生ごみバイオガス化処理残渣 ・生ごみ堆肥化処理残渣 	
焼却施設	受入・供給設備	ピットアンドクレーン方式
	燃焼設備	ストーカ方式
	燃焼ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
	排ガス処理設備	ろ過式集じん方式
	通風設備	平衡通風方式
	余熱利用設備	発電 1,990kW 施設内熱利用
	給水設備	生活用 : 上水 プラント用 : 上水
	排水処理設備	生活用 : 合併処理浄化槽 プラント用 : クローズドシステム
	飛灰処理設備	薬剤処理方式
	電気設備	高圧受電方式
	計装設備	中央制御室からの集中監視・操作方式
煙突高さ	40m	
構成施設	管理棟 (工場棟と合棟) 計量棟 雨水調整池 ロードヒーティング その他外構設備	

3. 事業期間

事業期間は次のとおりとする。

- 1) 運営準備期間 : 契約締結日から令和6年3月31日まで
- 2) 運営期間 : 令和6年4月1日から令和26年3月31日まで (20年間)

第2 審査方法等

1. 審査の方法

本事業では、公募手続きに参加する応募者が、本事業の公告に際して配布した募集要項等に示す参加資格要件を満たしており、かつ応募者の提案内容が、技術的観点等から道央廃棄物処理組合（以下、「組合」という。）の要求水準を満足したことを確認したうえで、優先交渉権者を選定した。

なお、優先交渉権者の選定にあたっては、公平性、透明性を確保する観点から、公募型プロポーザル方式により実施し、価格要素及び非価格要素（運営方法、管理方法、技術等）によって選定した。

2. 優先交渉権者選定までの経過

優先交渉権者の選定までの経過は次に示すとおり実施した。

内 容	日 程
① 公募公告、募集要項等の公表	令和4年12月1日（木）
② 現地視察の実施	令和4年12月12日（月）、13日（火）
③ 参加資格関係に関する質問受付期限	令和4年12月16日（金）
④ 参加資格関係に関する質問回答の公表	令和5年1月10日（火）
⑤ 参加資格審査申請書受付期限	令和5年1月20日（金）
⑥ 参加資格審査結果通知	令和5年1月27日（金）
⑦ 募集要項等に関する質問受付期限	令和5年2月10日（金）
⑧ 募集要項等に関する質問回答の公表	令和5年2月27日（月）
⑨ 競争的対話のための資料提出期限	令和5年3月7日（火）
⑩ 競争的対話	令和5年3月16日（木）
⑪ 事業提案書の受付期限	令和5年4月21日（金）
⑫ 基礎審査結果の通知	令和5年6月16日（金）
⑬ 応募者プレゼン、ヒアリングの実施、見積書開封	令和5年7月12日（水）

3. 公募型プロポーザル選定委員会の設置

提案書の非価格要素審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む次に示す5名の委員で構成される公募型プロポーザル選定委員会（以下「選定委員会」という。）により実施した。

選任区分	委員名	所属・役職等
学識経験者等	吉本 直人	公立千歳科学技術大学 理工学部長 教授
学識経験者等	八鍬 浩	公益社団法人 全国都市清掃会議 技術部長
学識経験者等	天羽 浩	天羽浩公認会計士事務所 公認会計士
行政委員	浅井 雅樹（令和4年度） 千田 義彦（令和5年度）※	千歳市市民環境部 部長
行政委員	高橋 直樹（令和4年度） 阿部 泰洋（令和5年度）※	北広島市市民環境部 部長

※市職員の人事異動による。

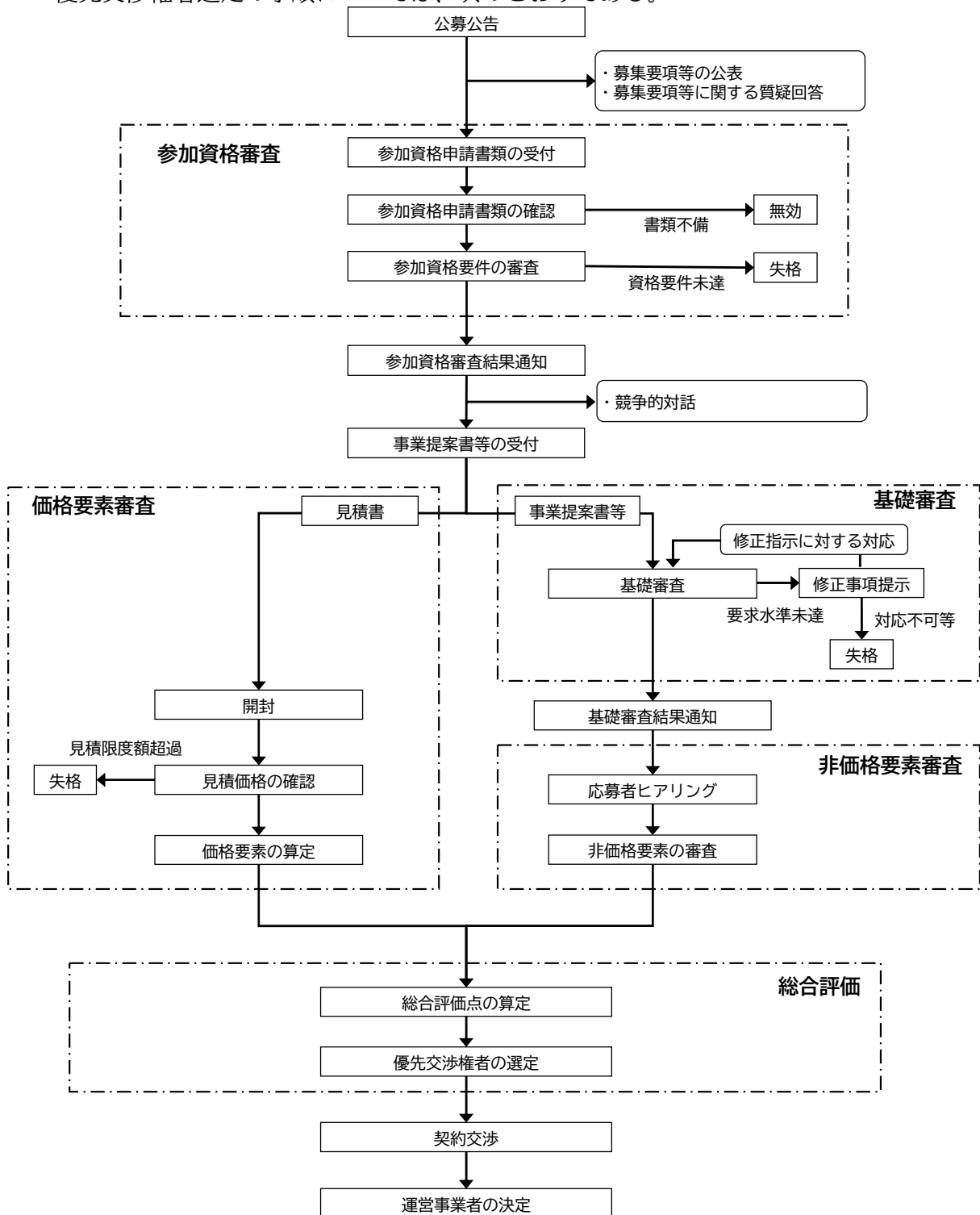
4. 選定委員会の開催経過

本事業における選定委員会の開催経過は次のとおりである。

日程		主な審議事項
第1回	令和4年8月30日（火）	<ul style="list-style-type: none">・委員長及び副委員長の互選・事業者選定のスケジュールについて・実施方針（案）について・要求水準書（案）について・優先交渉権者の選定について
第2回	令和4年11月21日（月）	<ul style="list-style-type: none">・事業者選定スケジュールの変更について・実施方針、要求水準書(案)の質問・回答の対応について・公募公告資料（案）について
第3回	令和5年6月8日（木）	<ul style="list-style-type: none">・事業提案書基礎審査内容の報告・事業提案書の確認・審査方法（ヒアリング・審査）の確認
第4回	令和5年7月12日（水）	<ul style="list-style-type: none">・事業者ヒアリング・総合評価審査の実施（見積書開封）・審査講評

5. 優先交渉権者選定の手順

優先交渉権者選定の手順については、次のとおりである。



6. 審査概要

1) 参加資格要件審査

参加資格要件審査は、応募者から提出される参加資格審査申請書により、募集要項に示す参加資格要件を全て満たしていることを道央廃棄物処理組合において確認した。

2) 提案内容の基礎審査

応募者から提出された事業提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認した。

なお、審査に際して要求水準未達に関する疑義、提案書間の齟齬等に関して、修正事項の提示を行い、応募者から提出された修正回答を確認した。

3) 非価格要素の定量化審査

① 提案書の審査

選定委員会は、表1に示す審査項目及び配点に基づき、提案書に記載された内容について、評価を行った。

なお、非価格要素に関する事項の配点は、70点とした。

② 非価格要素点の算定方法

提案を求めている審査項目において、表2に示す5段階評価により評価、点数化を行い、各審査項目の得点については、各委員の項目毎の得点を平均化（小数第3位を四捨五入し小数第2位までとする。）し、各審査項目の得点を合計して、非価格要素点を算定した。

なお、評価は道央廃棄物処理組合が要求する水準を満たしたうえで、優れた提案に対して評価を行う加点方式であり、選定委員会では、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価した。

表 1-1 非価格要素の評価項目

評価項目	評価の視点	配点
運営管理体制		6
運営管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・安全運転・安定稼働の確保に向けて、運転員ごとの明確で具体的な役割分担とともに、適正な人員配置による効率的な運転体制が提案されているか。 ・有資格者が確保され、適切に配置されているか。 ・具体的で実践的な人材育成のためのプログラム等が提案されているか。 	6
リスク管理		12
緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時及び災害発生時における施設の迅速な復旧に向けた対応方法が具体的に提案されているか。 ・薬剤誤投入による人為的事故や、ごみピット内火災などの事故に対し、未然防止対策が具体的に提案されているか。 ・新型コロナウイルス感染症拡大等の状況下における業務継続にかかる対応方法が具体的に提案されているか。 	6
リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業に伴うリスクを認識し、その対応、セルフモニタリングについて、具体的で効果的な方法が提案されているか。 ・リスク顕在化確率の極小化、リスク顕在化時の影響の極小化を考慮した的確なリスク管理体制が提案されているか。 ・付保する保険が妥当な内容となっているか。 	6
運転計画		21
運転計画・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・効率性と安全性を考慮した適切な運転管理方法が提案されているか。 ・ごみ質、ごみ量変動への対応策が十分検討され、具体的で効果的な内容となっているか。 ・年間の発電量、売電量を最大化するような運転計画について、具体的で効果的な方法が提案されているか。 	9
受入管理	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入されるごみの受付、案内・指示等の対応方法（通常時及び混雑時）について、優れた内容となっているか。 ・処理不適物等の確認及び除去について、具体的で効果的な方法が提案されているか。 	6
公害防止対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各環境保全目標を確実に遵守するための対応、運転監視方法に対し、実効性と妥当性のある方法が提案されているか。 	6

表 1-2 非価格要素の評価項目

評価項目	評価の視点	配点
維持管理計画		13
維持管理・補修計画(プラント部分)	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化及び経済性を考慮した保守点検・検査、補修・整備、更新等について優れた方法が提案されているか。 ・用役等の調達方針及び調達計画について、通常時はもとより、不測の事態が発生した際にも適正に施設が稼働できるよう適切な内容が提案されているか。 	8
維持管理・補修計画(プラント以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物、建築設備(機械・電気)及び外構施設の保全に関して、保守点検・検査、補修・整備、更新等について優れた方法が提案されているか。 	5
事業計画		10
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的かつ健全な長期収支計画について、優れた内容が提案されているか。 ・長期収支計画に沿った事業遂行に影響を及ぼす不測の事態への対応策について、具体的な内容が提案されているか。 ・事業の安定性を確保出来る同種業務の実績や財務の健全性を有しているか。 	10
地域貢献		8
地元住民就労の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・地元在住者に対する就労の考え方において、人数や採用時期等について、具体的で積極的な方法が提案されているか。また、地元在住者の就労が確実に実行されていることを道央廃棄物処理組合が確認するための具体的な仕組みが提案されているか。 	4
地元企業への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・運營業務での用役調達等(従業員を除く。)における地元企業の活用について、地元企業の発注額、発注内容及び企業数等、積極的で意欲的な内容となっており、継続性のある内容が提案されているか。また、発注確認のための具体的なチェックシステムが提案されているか。 	4
合計		70

表 2 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準書を満たす程度	配点×0.00

4) 価格要素の定量化審査

提出された見積価格が予定価格を超えていないことを確認したのち、見積価格について、次に示す得点算定式により得点化した。

なお、価格要素点の配点は、30点とした。

価格点 = 配点 × (最低見積価格 / 見積価格)

- ・ 最低見積価格：応募者から提出された見積価格のうち最低の見積価格
- ・ 見積価格：応募者から提出された見積価格

5) 合計評価点の算出

合計評価の得点は、以下のとおりとした。

【算定式】

当該応募者の合計評価点 = 非価格要素点 + 価格要素点

第3 優先交渉権者の選定結果

1. 参加資格確認

令和4年12月1日に公募公告を行い、令和5年1月20日を期限として参加資格申請を受け付けたところ、以下の1グループから申請があった。

事務局は入札参加資格の確認を行い、令和5年1月27日に代表企業に対して参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平を期すため、提案書等すべての書類において応募者の企業名を伏せ、下記の応募者名で識別して評価を行った。

入札参加確認申請書類提出グループ	応募者名	ツツジグループ
------------------	------	---------

2. 技術提案書の基礎審査

令和5年4月21日を期限として参加資格を有する1グループから事業提案書が提出された。

応募者から提出された事業提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認した。なお、審査に際して要求水準未達に関する疑義、提案書間の齟齬等に関して、「基礎審査に係る修正要望」を行い、応募者からの修正回答を確認したうえで、問題ないと判断した。

令和5年6月16日に応募者の代表企業に対して基礎審査を通過したことを書面にて通知した。

3. 非価格要素の定量化審査

令和5年7月12日に、選定委員会において、非価格要素の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する応募者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

審査結果は表3に、非価格要素の各審査項目についての講評は表4に示すとおりである。

表3 非価格要素の定量化審査結果

審査項目		配点	ツツジ グループ
運営管理体制	運営管理体制	6	4.2
リスク管理	緊急時対応	6	3.6
	リスク対応	6	4.5
運転計画	運転計画・管理	9	7.2
	受入管理	6	3.6
	公害防止対応	6	3.0
維持管理計画	維持管理・補修計画 (プラント部分)	8	4.4
	維持管理・補修計画 (プラント以外)	5	2.5
事業計画	事業計画	10	7.5
地域貢献	地元住民就労の考え方	4	2.4
	地元企業への配慮	4	2.8
非価格要素点		70	45.7

表4 非価格要素に関する事項の講評

審査項目		講評
運営管理体制	運営管理体制	有資格者の配置について、廃棄物処理施設技術管理者を要求水準の必要人数以上に配置している点を評価した。 不測の事態への対応として、具体的な応援体制や内容が示されている点を評価した。
リスク管理	緊急時対応	緊急時の具体的な時間軸での対応などが示されている点を評価した。 欠員が発生した際の対応方法について具体的に示されている点を評価した。
	リスク対応	SPC を設立したうえで、技術リスクは代表企業・構成企業に移転し、SPC のリスクを極小化している点を評価した。 追加の保険への加入について提案されている点を評価した。
運転計画	運転計画・管理	売電量を増加させるための具体的な方策が示されている点を評価した。 ごみ量やごみ質の変化に対する制御設定値の見直し等も実施することが提案されている点を評価した。
	受入管理	搬入者への配慮として、マナー講習の実施等が提案されている点を評価した。 処理不適物を多段階でチェックする体制について評価した。
	公害防止対応	多数の運営・維持管理実績に基づく要監視基準値の設定がされており、超過時の対応等も具体的に提案されている点を評価した。
維持管理計画	維持管理・補修計画 (プラント部分)	各機器の特性に応じた保全方法を整理したうえで、点検を重要視し、時間基準保全と予防保全を明確に使い分けて維持を行っていく点を評価した。
	維持管理・補修計画 (プラント以外)	日常の点検を実施し、異常の早期発見に努めたうえで、早期修繕を実施し、大規模補修工事を予防する点を評価した。
事業計画	事業計画	SPC を設立する提案となっており、財務の透明性が確保されている点を評価した。 SPC の出資比率からも意思決定等も迅速に対応できる点を評価した。 代表企業の実績が豊富であり、財政的にも安定していることから、SPC を全面的に支援できる点を評価した。
地域貢献	地元住民就労の考え方	地元雇用の人数に対する具体的な数値目標が示されており、安定稼働にも配慮した計画となっている点を評価した。
	地元企業への配慮	地元企業への具体的な発注額が提案されており、さらにそれを最低限の目標値として前向きに進めていくといった高い意欲が伺えた点を評価した。

4. 見積価格の定量化審査

選定委員の立会いのもとで令和5年7月12日に見積書の開封を行い、参加者の見積価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

開封結果から、見積価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表5に示すとおりである。

表5 見積価格の定量化審査結果

項目	配点	グループ名
		ツツジグループ
見積価格（税抜）	—	11,868,000,000円
価格要素点	30	30
予定価格（税抜）	—	11,868,800,000円

5. 合計評価点の算出

「非価格要素の定量化審査の得点」、「価格要素の定量化審査の得点」を加算し、表6に示すとおり、合計評価点を算出した。

表6 合計評価点の算出結果

項目	配点	グループ名
		ツツジグループ
非価格要素点	70	45.7
価格要素点	30	30
総合評価点	100	75.7
優先交渉権者		○

6. 優先交渉権者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「ツツジグループ」を優先交渉権者として選定した。

第4 総評

本事業は、現在、千歳市に整備中である道央廃棄物処理組合を構成する千歳市、北広島市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町の2市4町の可燃ごみ等を処理するための焼却施設を令和6年度から20年間という長期にわたり管理運営を包括的に委託する事業である。

民間事業者の知見を最大限活用することにより、安定的なごみの中間処理の継続と運営事業者の創意工夫による公共サービス水準の向上及び財政負担の縮減等を目的とし、公募型プロポーザル方式を採用した。公募型プロポーザル選定委員会では、審査基準及び審査方法等を定め、優先交渉権者選定のための審査を実施した。

最終的に1グループからの提案となったが、先進的で独自のノウハウや工夫を凝らした技術的知見が随所に盛り込まれており、道央廃棄物処理組合が定めた要求水準を上回る内容であった。

公募型プロポーザル選定委員会は、厳正に審査を行った結果、ツツジグループを優先交渉権者として選定した。

ツツジグループの提案では、「運転計画・管理」、「リスク対応」、「事業計画」の項目について特に高い評価となり、SPCの設立による効果的な運営とリスクの極小化、代表企業の財務の健全性及び実績が評価された。また、「地元貢献」の「地元企業への配慮」について、提案で示された内容が最低限の目標とのことから、20年間の運営の中でさらに拡大されることを期待する。

今後、道央廃棄物処理組合とツツジグループが良好なパートナーシップを構築し、要求水準及び事業提案に沿ったごみの適正処理に努めるとともに、長期的視野に立った事業運営が実施されることを期待する。

焼却施設管理運営業務民間事業者選定に係る
公募型プロポーザル選定委員会
委員長 吉本 直人